

目次

なかの幼稚園の願うもの	3
最も重要なのは	4

1 遊び

遊びが最も重要	5
いつも子どもが真ん中①	6
いつも子どもが真ん中②	7
漫画 ～なかのの先生～	8
なかのの先生①	9
なかのの先生②	10

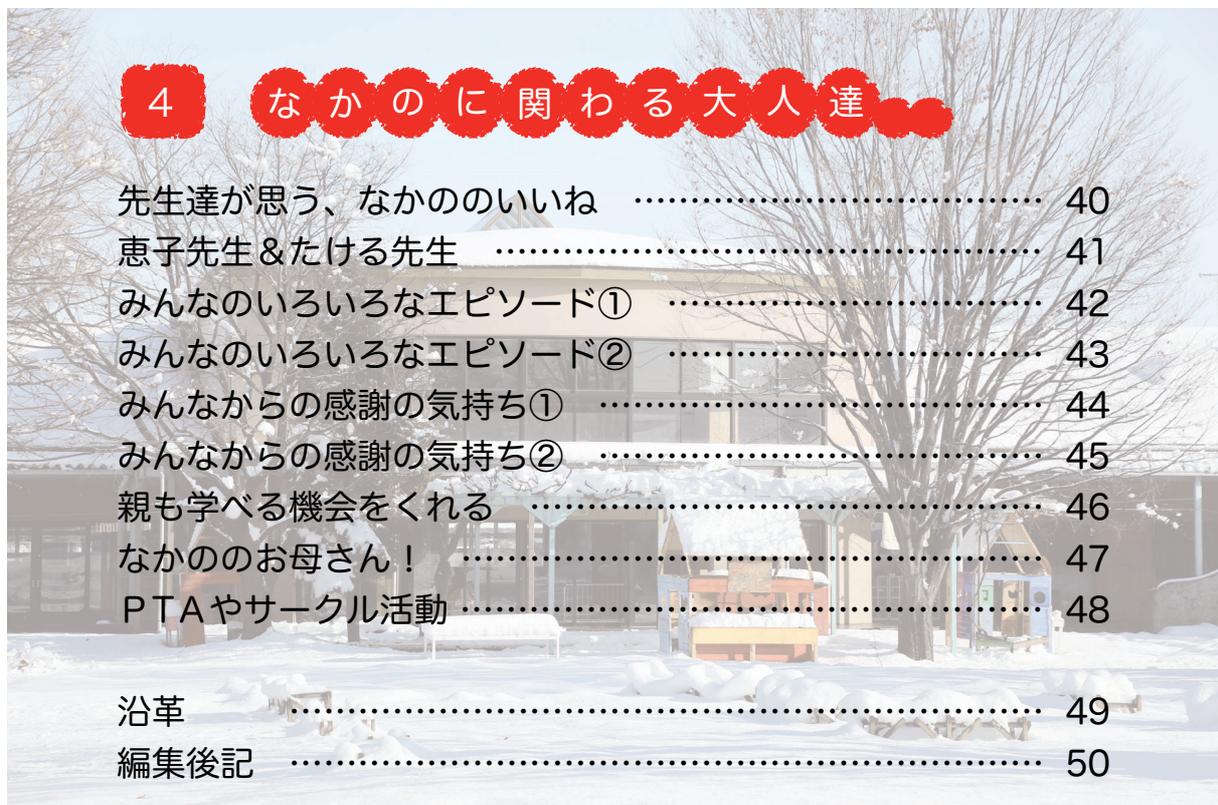
2 仲間と生活

「ねえ、みんな」	11
仲間愛♡	12
大成功パーティー	13
お弁当の時間	14
漫画 ～毎日お母さんは頑張っています！～	15
お弁当へのママの思い	16
漫画 ～尊すぎます、健先生～	17
健先生のページ ～お弁当とグループワーク～	18
なかののクラスだより	19
健先生のページ ～グループについて～	20
なかのっこの絵	21
行事と生活の中で	22
健先生のページ ～係の仕事～	23
なかののプール	24
お泊まり会・花火の幼稚園	25
運動会	26
健先生のページ ～運動会をなぜするのか？～	27
木工！	28
ダンボールの動物園	29
劇の会	30



3 環境

- いっぱい遊べる園舎と遊びのアイテム 31
- 健先生のページ** ～こどもを中心においた建物～ 32
- 遊びがいっぱい！最高の園庭と、陰の力 33
- 健先生のページ** ～子どもを中心においた園庭～ 34
- 豊作の畑と、ニワトリのたまご 35
- なかのバス 36
- なかのクラブ 37
- 漫画** ～なかのクラブの素敵な時間～ 38
- 課外保育！サッカー！バトン！子ども会！ 39



4 なかに関わる大人達

- 先生達が思う、なかのいいね 40
- 恵子先生&たける先生 41
- みんなのいろいろなエピソード① 42
- みんなのいろいろなエピソード② 43
- みんなからの感謝の気持ち① 44
- みんなからの感謝の気持ち② 45
- 親も学べる機会をくれる 46
- なかのお母さん！ 47
- PTAやサークル活動 48
- 沿革 49
- 編集後記 50

なかの幼稚園の願うもの

子どもが生き生きと生活する。
生活することを通して諸能力を伸ばしていくこと。
自分たちの生活を自分たちで進める。
これがなかの幼稚園の願いです。

なかの幼稚園という環境のなかで、そうした生活を営んで欲しいと願っています。
なかの幼稚園がそうした生活に、ふさわしい場になって欲しいと願い、努力しています。

子どもが生き生きと生活する。それには、子供が「行きたい!」と思える園生活があることが必要です。
子どもが「幼稚園に行きたい!」と思うには、「〇〇で遊びたい。」「〇〇ちゃんと遊びたいな。」そんな思いが必要です。そこには、好きな遊びがあって、好きな仲間がいる。

その遊びと仲間、年齢によって変化していきます。
子どもの発達に応じた、遊び。その遊びに、ふさわしい環境や助言が必要です。
仲間や仲間との関係も、子どもの発達によって変化します。その変化を見守り、助言することも必要です。

遊びと仲間を見守り、援助していくことで、園生活は充実していくものと考えています。
そして、なかの幼稚園では、遊び・仲間という視点の他に、
「自分たちの生活を自分たちで進められるように」ということも大切にしています。



この思いに共感し、子どもと共になかのを楽しむ保護者が大勢いる、なかの幼稚園。在園児、卒園児、さらには、そのお家の人たちにも愛されているのがなかの幼稚園です。この創立51・52周年の記念誌は、なかので「日本一幸せな時期を過ごす子どもたち」を通して、お家の人が感じている「なかののいいね」を挙げてもらい、そこになかの幼稚園の理念や思いを合わせて載せて、作成しました。共感する場面はもちろん、新たな発見もあると思います!子どもたちの様子を思い浮かべながら楽しんでお読み下さい。

最も重要なのは

遊びについて

豊かな環境、ゆったりとした時間。様々な遊びの中から、自ら選択し、取り組む。そうした体験を通して子どもは自分の力に気づき、仲間の中に開かれていくのです。

ひとりの人間として、自立し、確かな成長を遂げるために、遊びはもっとも重要なもの。それが、なかの幼稚園の教育の中で遊びを最も大切にする理由なのです。

音楽、体育、英語等々、次から次へと追い込まれていては、子どもは育たないのです。



幼稚園でやっておきたいこと（なぜ遊びが大事なのか）

幼児期にやっておきたいこと、体験しておいてほしいこと。発達著しい幼児期だからこそやっておきたいことがあるのです。なかのでは、それは学校に上がる前に学校の先取りとして取り組む勉強だとは思いません。それは「自分の考えに気づき、表現すること」「自分の体を動かせること」「やればできると思えること」「仲間と何かをするって楽しいと思えること」「周りの大人は信頼できると知ること」。たくさんありますが、どれも、実体験からの自分だけの学びです。最近、幼児期に身に付けることに大事な力として「非認知能力」が挙げられています。文字や数字を書けるといった数値で測れる能力ではなく、目的に向かって頑張れる力や創造力などということです。なかのが、学校に上がる前に培ってほしい力と、同じだと思えます。大事なことは昔から変わらないのかもしれませんが。

この力は、勉強からでは身に付きません。自分で実際にやってみることで育ちます。実際に自分でやってみる原動力になるのは、自分がやりたいこと、好きなこと、です。やりたいこと、好きなことは「遊び」という言葉に置き換えられると思います。自発的な学びのあふれた、自発的な遊びが大事なことがわかります。

学校の先生から「学校に上がる前にやってきてほしいことがあるとするなら、45分授業という時間の枠を超えて集中したり没頭することです」と言われたことがあります。その通り！と思いました。そしてそれなら、なかのは充分やっている、とも思いました。

英語の学習はしません。算数もしません。

バザーのお金は何枚あるか数えたり、クラスみんななら何枚いるか考えたりはします。

英語を覚える前に日本語を獲得してほしいと願っています。

考えるときに使うのは、ことば。母語です。母語がしっかりしている範囲だけ、外国語が身につくそうです。"What do you think?"っていわれても伝えたい中身がないと喋れないですよ。

遊びが最も重要

～自分の好きな時に好きなものを使って遊ぶ～

おうちの人

泥んこにまみれ、空き箱にまみれ。人によっては、きちんとしていないと思われるかもしれないけど、自分の世界にどっぷり浸かり、とことん夢中にさせてもらえる環境が素晴らしい。

子ども達が自分たちのやりたいことを決めて園長先生に直談判しに行くことも素晴らしいと思う。パーティーやお出かけ等、いつも急な企画に嬉しい驚きです。

やりたい遊びができる。

空き箱製作は、作って遊んで更に付け足して結構遊べる。いつでも作れるよう沢山用意しておいてくれる。空き箱、セロテープ、折り紙もたくさんある。

お部屋に箱がいっぱいあり、自由に工作できるので工作好きな子には夢の世界！（小学1・2年で作る工作を、もり組で作っているなかの子の工作のレベルは高い！！）

五感体験で学ぶ木工の測量 手ではかる→うまく行かない→道具を使う

ゴッコ遊びなりきって普段ママに言えないこと言えちゃう→大事

子ども達の「やりたい」を形にしてくれる！

園庭でも、お部屋でも先生と子ども達が密着して遊んでいる。距離が近いから子ども達も安心するだろうなと思います。

何でも作っちゃうなかの子。DS持ってない子
→「作るからいいよ」箱で作る。
白いドレス着て、「あ、白い靴が欲しいな」→白いティッシュ箱を足にはめてOK！



先生

空き箱製作や、ごっこ遊び。やりたいときに、すぐやれる。やりたいたけやれる。これができるから「ないなら自分たちで作ればいいよ」と、普通に思えるのでしょうか。すごい自信ですよね。たぶん卒園する頃には、「自分は何でもできる」と、普通に思っているんです、みんな！



いつも子どもが真ん中①

おうちの人

自由の中で生きる力がつく

自由はある意味大変なところもあって、世の中ルールを敷かれた方が楽な人が増えている気がする。先生も統制してしまった方が楽なのに、あえて**大変だけど自由の中で育ててくれているので、自分でいろいろ選択できる子になる。**自由といっても、ただ放任し遊ばせているワケではなく、テーマをもって一人一人のストーリーができていく。**親も「自由」に関してある程度責務を果たしていかないと、この素晴らしいシステムを続けられないな**と思う。

子ども同士のやりとりを大事にして、見守りつついろいろやってくれるので、**子供自身が自分の気持ちに気づいたり、伝えようとする力がつく。**

保護者が楽できるように、保護者同士のトラブルが起きないように…、保護者からのクレームにつながらないように…。そんなことばかりが優先される風潮のなか、**子ども達のことを第一に優先して頂けることが幸せです。**

子どもの気持ちを一番に考えてくれる。

自己肯定感が育つ！

**やってみなくちゃわからない！
包丁・トンカチ・木登りもしっかり体験させる。
☆危険なポイントもやったからこそ理解できる！**

制服じゃないから、思いっきり遊べる！

先生、**子どもを信じてやらせてくれる。**幼稚園においていかなきゃならないものを持って帰りたい→「明日持ってきてね」と子どもを信じてくれる

手先をたくさん動かしたり、自然に沢山触れ合ったり、生活に基いた体験、仲間との喧嘩。英語や読み書きはないけれど、その分、自ら考えて行動する力がつくと思う。**机の上で行われる授業よりも、頭もよくなるし、体もよく発達すると思う。**

先生

遊びの時間は短い方が、自由な時間は少ない方が、大人が管理しやすいので楽なんです、実は。

一斉活動でみんなを集めて折り紙を作ったり絵を描いている方が、準備も楽し子どもを見るにも目の前に集めておけば簡単です。

「自由に好きなことをしていいよ」というと、大人が各場所にいる必要があったり、どこでもトラブルが起ります。それに自由時間が長いと、子どもも自分で遊べないとならないので、子どもの力も要るんです。**それでも自由な時間は、取る。遊びのために準備もする。その中でできることがたくさんあるから。それと、信頼するに足ります、子ども。**よく見学者に「こんなに自由で、ケガしてる子がいたらどうするんですか？」って聞かれますが、大丈夫。仲間が教えに来てくれます「せんせー、大変〜」って。



制服がない理由

遊び慣れた服でいっぱい遊べること。着替えの時間がないので、登園してすぐに遊びたい遊びに没頭できます。「普通の」毎日を過ごす服は気兼ねないのが一番です。

いつも子どもが真ん中②

子どもファーストなかの**入園式**は、ちゃんと子ども向け！新入園児の小さい子が飽きずにできるよう、**大人の長い話はなし**等、良かったです。なので、卒園式ではちゃんとできていて本当に成長を感じました（涙）。

卒園アルバムを渡していただいたときに感動しました。ただのアルバム渡しではなく初めての同窓会、母校訪問。子供がホッとしているのがそばでみてわかりました。→**在園児だけでなく、卒園児にも愛情たっぷり**のなかの！！サイコー！！

入園後に、飼育小屋を見てからN西先生に「動物いっぱいですね」とお話ししたら、『**お母さんと離れて、子ども達が心細い気持ちでも、うさぎや動物を見てかわいいと思ったら気持ちが温くなる（？）安心できる（？）ので**』（めっちゃ子供本位で嬉しい(TT))

先生の柔軟な対応

入園式の日、子供がせっかく買った上履きだから、それを園においていきたくない。「持って帰りたい。」と言った時→先生は「また明日持ってきてくれればいいよ」と柔軟に対応してくれる。

片付けたくないものは、話を聞いて翌日まで取っておいてくれる。何がなんでも絶対片付け！とはしない。砂場の山にも✕を見つけて笑いました。



担任2体制もいい！子どもも30人で1人の先生を取り合うより良いと思うし、手厚くてありがたいです。

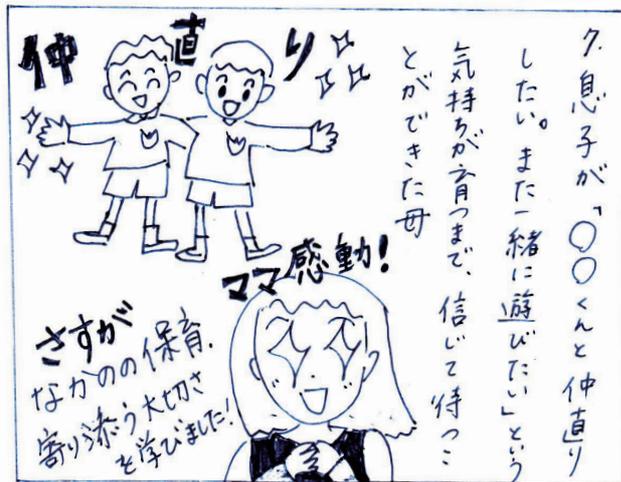
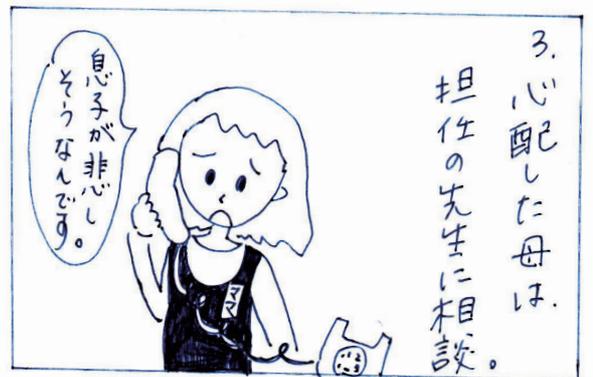


作ったものをとっておきたい時は、**✕マーク**があります。子ども達がわかっていてとっておいてくれます。（一日くらいですが）

なかの先生は、子どものペースを大事にしてくれています

なかののいいネ!

そらろ わたべ そくいちろう (母) 美華



なかの先生は、子どもと一緒に遊んでくれる

おうちの人

子どもがイキイキとしている。今日はこれをして明日はこれをやるの!! その次は〇〇と〜、と日々やりたい事がたくさんあって、それをセンセイがやらせてくれて、一緒に関わってくれる。子どもにとって最高の居場所。そして子どもが幸せなのを見ると、母も幸せ! ありがとう!!

先生が子どもと一緒に思いっきり遊んでくれる。(近所の公園には5つくらいの園が遊びに来ますが、先生は腕を組んで立っているだけ... という園がほとんど。でも、なかの先生と一緒にすべり台をすべり、お面をつけペットになり子ども以上に走り回って、子どもと全力で遊んでくれる。スゴイ!)

どれだけ泥んこになっても先生が止めない

園庭でドロケイやリレーの遊びを、子どもと一緒に思いっきり走ってくれている。炎天下のなかや、寒い冬でも。

先生と一緒にいっぱい遊んでくれるから、子ども達が先生に心を開き、信頼していくのだなーと思います。

とにかく先生がすごい! すごすぎる! 幼児期の面白さ、喜び、楽しさ、大切さを教えてくれる。

園庭が広くてのびのびと成長できる。子供の意思を常に尊重してくれる。子供の発言を大事にし、耳を傾け必ず答えてくれる先生方。一人ひとりをよく見ている。

こんなに話をじっくり聞いてくださる先生はなかのしかない! 子供の話をちゃんと聞き、ギュッと抱きしめてくれる優しさが大好き♡

不安なこと、イヤだったこと、新しくできたこと、成長したことを先生が本当によく見てくださる。親の私が気づかなかったことまで気づいてくれた。感謝感謝の日々です。

先生

「子どもは遊ぶために幼稚園に来てるの、ブランコに乗ろうと思って来てる、砂場のシャベルを一番に使おうと思って来てるの」

40年以上前の幼年教育研究所の夏季セミナーでの当時園長だった恵子先生の御発言。

これをきっかけに、

「もっと子ども達のための環境を用意し、子ども達を中心に置いた活動や行事を考えていかなくては」が共通の課題になりました。

健先生筆「なかのを振り返って」より抜粋



泥んこ

年齢や子に応じて止めたりもします。

でも、「くつ、脱いできたか?」など、あまり禁止はしていないかも。

友達に迷惑なことは、はっきり止められます。

「砂は投げないの」など。



なかの先生は、表情がとても優しいです

おうちの人

担任の先生だけでなく、いろいろな先生が子どものことを見ている。

先生達が押し付けない（考え等）ところ

先生方一人一人が、子供達の個性やその時の気持ち、成長具合等に目を向け、向き合って下さり、子供達一人一人を良く見てくれる。

園全体で一人一人把握してくれている感じがして親も安心。

一時期、登園渋りをしていたとき、先生が毎朝家まで迎えにきてくれました。

上の子に比べて色々ゆっくりですが、「〇〇ちゃんりの階段をのぼっている」と受け止めてくれる先生の大きさに救われます。

いつも一緒になって考えてくれる。子どもの“考える”に付き合ってくれる

子供同士のトラブルを名前も含め、先生達が教えてくれる。“私が忘れちゃって”“先生がミスっちゃった”みたいなことを隠さず話してくれる。信頼につながってると思います。

先生達がとても寛大

子どもの喜怒哀楽を大切にしてくれる。みんな違って、みんないいー♡を教えてもらった。

具合が悪くなり早退したときに先生の車で家まで送り届けてくれたことにびっくり。

雪が降ったらできればとにかく登園！雪に絵の具で色をつけるなんて、楽しすぎます！

お片づけの時に、先生がピアノを弾かない。朝の歌と、帰りの歌がない。必要ないですね。

先生



子供の気持ちを整理し言語化する

先生が子どもと一緒に考えることが多いです。子どもの言葉をきいて「そうか、〇〇の気持ちなんだね、わかったよ」よく使われているかもしれません。これ、『子どもの気持ちを整理して、言語化（言葉で表す）している』というのと、その気持ちや状況について『大人がいい・悪いをジャッジしない』ということをしているのです。

で、どうしよう・・・という時は、先生も本気で困ります。「こうしなさい」で終わらせないってことなのです。子どもと答えを探す。もちろん、「それはできないなあ」の時もありますよ！



2

仲間と生活

「ねえ、みんな」「なーに?」「車作ったよ」「いいねー」

このフレーズにのせて、自分のやったことをみんなに発表していくスタイル。みんなの前で発表することって、緊張するけど、このフレーズにのせると言いやすくなるのかな?と思います。我が子が「ねえ、みんな」ができたよと聞くと、「ヨシ!頑張った」と思えます。ママ達の親睦会でも、「ねえ、みんな」と言えば「なーに」と返ってくるくらい浸透しているフレーズです。

おうちの人

なかの子って・・・自分がやりたいこと、考えを持っていて実行できる。→**受け止めてくれる仲間がいる**。自分を出せる。「ねえー、みんなー。」
「なあにー?」

先生は頭ごなしに正解を押し付けることはなく、極力その子の考えを聞いてくれる。子どもは、**受け入れてもらえることで自信がつく**。例えば「ねえ、みんな」のような言いたい事を手を挙げて言うことができる。

先生

何かを発信するとき、**最初のひとこと、があると続きが言いやすい**ですね。自分の思ったことや言いたいことを言うことの**大きな手助け**になっています。子ども達にとっても、子どもが言う方が、大人が言うより聞きやすいこともたくさんあるしね。



ねー、みんな!
なーに?
ドーナツ作るよ!
隣のクラスが食べて
たからー
いいよー!

この「ねー、みんな」をきっかけに、隣のクラスになんて食べたのかを聞きに行きます。

ここから大成功パーティーに発展して行くこともあります。

ねー、みんな!
なーに?
きゅうりなってたよ!
園長先生に聞いて
とってきたよ。
ありがと～

ねー、みんな!
なーに?
・・・
忘れちゃった?
うん
じゃ、また後でね
うん

ねー、みんな!
なーに?
今日の髪型どう?
いいねー (定型文)

↑もり組になると、こんな風に自分の容姿のこともみんなに伝えられていくんです
ね

ねー、みんな!
なーに?
ディズニーランド行
ったよ!

↑あらあら、用事でお休みだったのは、それでだったのね～。
子どもの口に戸は立てられませんね
(笑)

仲間愛♡

なかのならば！お休みの子に「元気玉」を送る！「元気になーれ、元気になーれ！元気玉！ほい！」おやすみの子へも思いを寄せて作り上げる、仲間愛♡

おうちの人

遠足→その日にお休みした子がいたら、もう1回行ってくれる！思い出に穴を開けないのがすごい！

遠足、お休みした子がいたらまた行ってくれるんだよ。と、ママ友に聞き、なかのに決めました。

そら組のお泊まり会を休んだ子がいて、サマーランド行けなかったので、プールで何とかサマーランドを再現できないか考えてくれていました。子供「またサマーランド行こうよ」→先生「じゃあサマーランド作っちゃう？」と。

リーダーの日に休んだら、次の日登園したときにリーダーをやらせてくれた。

もり組のときに、インフルエンザにかかってしまい、劇の会をお休みしました。一生懸命練習していたと思うので見たかったな、と残念な気持ちでしたらまさかのもう一度別の日に行ってくれました。本当にありがたくて感激しました。

先生

「〇〇ちゃんが休んでいるよ」を知らせてあげたり、休んだ時も「みんなが気にしているよ」という事を知らせてあげたいのです。おやすみした時に、「みんなが元気玉を送ってくれたかなー？」と気にしていました、というお家でのお話も聞きますよ。



全員いるから、今日行こう！ができるのは、「毎日お弁当」のおかげです。

おやすみ調べカード



大成功パーティー

おうちの人

子どもが作りたいものを作らせてくれる。パフェやピザは、アレルギーのある子は大丈夫かな？と心配になりましたが、なるほど、と思える安心安全なものでした。子どもは納得、満足。親も安心安全なお料理にいつも感謝！

小さい組も、**出来ることでクッキング**させてくれる。スティックに切った野菜を**ポキポキ**と折っていくことも料理！

子どもたちからでるメニューに「無理」「できない」とか（先生たちは）言ってないのでは？先生方は絶対大変だし、何クラスも重なる こともありますよね。本当にすごい。

大成功パーティー人気メニュー

- ・カレー ・シチュー ・お味噌汁
- ・ピザ ・足踏みうどん ・クッキー etc.

不動の人気！

＊カップケーキ＊ホットケーキ＊

♪どちらも生地は同じです♪

<材料>

小麦粉	100g
ベーキングパウダー	小さじ1と1/2
砂糖	25g
卵	1個
牛乳	160g
油	50g

アレルギーのある時は、牛乳をお水に変えたりします。

先生



「このこと」が終わったら、みんなで大成功と思って欲しいなと、というところからスタートしました。ですので、運動会が終わってみんなでやれた！とか、大きな行事が終わって！という事が多かったのですが、今では**みんなで〇〇をやったから大成功パーティーをしよう！**なんて、日常の中のちょっとしたことにも目が向いています。



お弁当の時間

おうちの人

お弁当作りは、ないよりは大変だけど、**毎日子どもと触れ合うための大切なコミュニケーションツール**です。「お弁当ピカピカだよ」「お弁当美味しかった」「ママのお弁当がおいしいから好き」「今日はおなかいっぱい食べきれなかった...」など日々の会話となりますし、喜んでくれる姿は、**子育ての大きな励み**となっています

毎日のお弁当は大変な時もあるけれど、お弁当から子どもの様子が伝わることもある。何かにプレッシャーを感じていると食べる量が減っていたり。お弁当が**心や健康のバロメーター**になって返ってくる。まだ物事をうまく説明できない時期だからこそ、子どもと向きあうキッカケになる。話してみると、「早く食べて遊びに行きたいから量を減らして」なんてこともある。

お弁当に慣れてると、卒園した後、**自分でお弁当作らようになりました**。小学校の遠足のときなど、親は作り慣れてるので、あまり苦労しません。

お弁当のおかずはなあに？

- ・唐揚げ、ハンバーグ、ミートボール、ウインナーから、魚や煮物などいろいろです。
- ・おにぎりも、いろんな味と形で、それぞれのお気に入りがありますね。
- ・小さい丸から、バクダンおにぎり！まで。
- ・園でカレーを作る時は、白いご飯のみのお弁当。楽でいいですね。

ちょっと面白いお弁当

- ・うどん
茹でた素うどん、別の容器にめんつゆ
どうしてもこれじゃなきゃ嫌だ！という子がいて、お家でお汁をこぼさない練習をしてから実践！
 - ・ちぎったパン
 - ・シシャモ 1本
 - ・りんご 1個
- 子どもが求めるなら、いいと思うんです。

先生

お弁当には、幾つもの**教育的なねらい**と願いが込められています。が！それを支えてもらうのはお家の方。本当にありがとうございます！

なぜ、お弁当にこだわるのか？

実は、たくさんの理由があります。

- ・子どもが、**自分達の手で準備**できる。
- ・**おうちの人とのやり取り**がある。手紙のようにお弁当をとおして様子が伝わりますよね。
- ・自由度が高い。**時間にしろ、場所にしろ、給食よりも格段に自由度が高い**です。**遠足や散歩に突然行けるのも、毎日がお弁当だからこそ**。
- ・**個人に合わせられる**。アレルギーも好き嫌いも、合わせて作れます。
- ・**おうちの食材が豊かになる**。明日はお弁当がある、となると食材を確保しますよね。面倒ですが、食卓の豊かさにはつながると思います。
- ・**愛がある**。**子どもは、お弁当が好き**。作ってくれた人の、子どもへの愛がある。食べてくれると、うれしい。全部食べたよ、の報告は作ってくれた人への愛。（これは、負担になる人もいるし、食べきれない子もいるので、全てに当てはまるのではないですが、愛情のやりとりはあります。）

つくし組さんで毎年見られる可愛い姿



入園して初めてのお弁当！楽しみ過ぎて、登園するなりテラスでお弁当を開ける姿があります。お母さんのお弁当、嬉しいです

毎日お母さんは頑張っています！

弁当週5

そらろ わたべそういちろう (母) 美華

2. 毎月、娘の好きなメニュー！

1. 入園前の説明会... お弁当が週5日あることを初めて知る。

4. 担任の先生に相談。

3. たまにはりきって、和風弁当に挑戦するも...

6. あれから、6年...。娘と息子のお弁当を作る機会を与えてくれたなかの幼稚園。

5. たまにある「お握り弁当」や「カレーパーティ」みそ汁作り... 助けられ、月日は経る...

なかの幼稚園のおかげで成長できました♡♡♡

お弁当へのママの思い ～お弁当vs給食～

さあ、息子の幼稚園選びどこにしよう。と何件か幼稚園を周り、最後にここで葛藤したのだ。
そう...お弁当。ままま毎日お弁当。

お弁当vs給食、大変vs楽。

なかの幼稚園の保育の内容が素晴らしい！と思いながらも、手作りお弁当が...と先生に話すと

「なかの幼稚園では、お昼の時間は楽しい時間にしたいんです。

嫌いな食べ物が入っていると、お昼の時間が嫌になり、その事が理由で幼稚園へ行きたくないとなって
しまうこともあるんです。

なので、食べれる物を、食べられる分だけのお弁当でいいですよ。お弁当を残してきた時は、今日は
体調悪いのかな？それとも何かあったのかな？と気持ちに寄り添うことができたり、子供もお母さんの
温もりを感じれるんですよ。」と。

え...嫌いな食べ物、幼稚園...

私は自分の幼児期を思い出しました。

私の通った幼稚園では、仕出し弁当と、週に一度手作りお弁当でした。

仕出し弁当には、よくトマトが入っていて、トマトが大嫌いだった私は、「トマトが食べれない」このたったひ
と言が先生に言えず、黙って幼稚園バックにカットトマトをそのまま入れて持ち帰ってました。

凄く嫌だったな。

毎回、お弁当箱を開ける度にドキドキトマト。コソコソとバレないように自分のバックにそのまま入れるのも凄
く嫌。悪いことしてるわけじゃないのに子供ながらに凄い罪悪感。

みんな美味しそうに食べるのに、食べられない自分も嫌い。幼稚園嫌だな...

当時のなんとも言えない悲しい思い出がフラッシュバックしました。

そうか！大変or楽かで迷った自分が情けない。ここはお母さんの頑張るところなんだな。

子供には楽しい幼稚園生活を送って欲しい。

お昼は親が我が子に安心を提供できるということか！そうだよね！なかのにしよう！

いざ、なかの幼稚園に入園してみると、手作りお弁当である事で、沢山良い事があって、沢山のご褒美がある！
遠足の日はやったぜ万歳！オニギリ弁当！

そして、他の園に通うお母さん達が褒めてくれる！（何度も（笑））

「なかのってお弁当だよ。えらーい！」うん。毎日ね！「毎日なの！？凄いよ！よくやってるよー。」

ぜーんぜん！大したお弁当じゃないよ～(//∇//)

そこから私は、なかの幼稚園の素晴らしさ☆をペラペラと語り始めるのです♡

楽になる事ばかりが良いことじゃない。

本質をよく見る事を教えて頂きました。

ありがとうございます('ω')、

迷ってはいたけど、自信がないから背中を押してもらいたかったのかも。

心の中で本当は、なかの保育を受けさせたい！と決まっていたんだな。

ちなみに、子供の頃吐いてたトマト。

大人になってから食べれるようになりました！

食べれるようにと頑張らなくても大丈夫だよ。と当時の自分に言ってあげたい。



なかのママ いつもお弁当ご苦労様

頑張ってるよねー私たち(〜)偉い偉い♡

秋間かおり

お弁当を作るのは、お母さんに限ることはないのですね



なかの卒園生の子供が入園するケースはお母さんがなかの幼稚園出身と言う方が多く、お父さんがなかの出身と言う方、ちょっと少なくなってます。でも私も家族には聞かせられない発言だったなとは思っております。

健



お弁当とグループワーク

日本中でも珍しくなってきた、毎日お弁当の幼稚園

共働きの時代に、お弁当まで作る時間はない・・・
 昼だけでも栄養士のプランしたバランスの良い食事を取らせたい・・・
 こんな声が聞こえてきそうです。
 しかし、それでもお弁当、しかも毎日。それをするのには大事な理由があるのです。

お弁当の時間は、グループワークの一つとして大切な時間ととらえ、保育をしています。

■お弁当の時間はグループごとに進みます

- ①自分たちでテーブル運び
- ②当番がテーブルをふく（布巾を水道で絞って、テーブルを拭く。3歳、4歳児にとってはスムーズに行かない時もありますが、他の子は待ちます）
- ③自分のお弁当をリュックから出し、自分で用意する
 - ・当番先導で、「おべんとう、だしてもいいですよ。」。仲間が揃うまで待ちます。
 - 「おべんとうのよういはできましたか」「できました」
 - 「どうぞめしあがれ」「いただきます」
- ④食べ終わった子から「ごちそうさまでした」をして、片付けて遊びに行く

■各場面でのメリット

- ①仲間が協力し合う
- ②早く進むかどうかはお当番の子次第。普段、主導権を持つ子が待っていて、主導権を持たない子が待たせる場合もある。いつもとは立場が逆転し「待っててね」と言える環境ができること。
- ③タイミングを決めるのは、子どもたち。
- ④食べ終わらない子を待たなくてもいい
 - ・「待ってるんだから、早く食べるよ」と言わなくてもいいし、言われなくてもいい。

なかののお弁当は、大人が支配するのではなく、子ども主体で進めて行く大切なグループワーク。
 先生は「一人一人」をみている。子どもたちが、自分（たち）が進められているかな？という眼差しで適切な援助タイミングもうかがっています。**援助が必要なところに援助をしていく。**「ごちそうさま」を言っているかな？早く遊びたいために、途中で終わらせていないかな？ここは、援助が必要なことと考えています。

「自分たちの生活は自分たちの手で進めていいのだ」という価値観・力を、身につけてもらいたいと願っています。

健先生より



なかのクラスだより

おうちの人

クラス便りが、カラー。内容も充実。写真もいっぱいあり毎回楽しみ。

数の多さもですが、**定型文とかは全くなく、先生方がご自身の言葉で書いてくれている。**(保育誌の定型文だけ、とかのおたよりもわりとありますよね...)

毎回楽しみにしています。**子どもたちの成長が全部わかるのでクラスの子全員がカワイク**思えます。ちょっとした会話等いろいろメモで書いて下さり、頭が下がります。無理のない位で大丈夫です。

子ども達の発言などを細かく書いてくださっていて、いつも先生が手早くメモを取っているからだなーと納得です。

クラスの様子、子どものことをたくさん教えてもらえる。

他のクラスのことには知らないのですが娘のクラスの先生は少なくとも週1、多い時は週3くらい(!?)クラス便りを配って下さるので、**子ども達のことがすごく良く分かる。**誰が何を見つけた、コレを〇〇に見立てて遊ぶのがブームだ、△△を食べている様子(写真)等、みんなのおもしろいエピソード盛りだくさんで、バスコースで園にお迎えに行くことはほぼないのに、クラスの子どものキャラ、誰と誰が仲良しみたいだ、とかまで気づけば知っていたり、**自分の子どもだけでなく、クラスの子みんなかわいいと思うようになったし、園の様子が分かるので不安がないです。**子どもが突然折り紙で家を作った!と思ったら、翌日くらいのお便りでみんなで家を作っている写真が出て、「おお!幼稚園でやったんだな!」とつながったり、お便りで「動物園でペンギンがアジを食べているところを見ました」と読んでいたので、子どもが、「お母さん、アジってなーんだ?」とクイズを出してきた時も「は?味?」とかじゃなくて「知ってる~!ペンギンとかが食べるお魚じゃなーい?」と楽しく返せるヒントがたくさん書いてあって親子の会話の盛り上がりが大変助かっています。

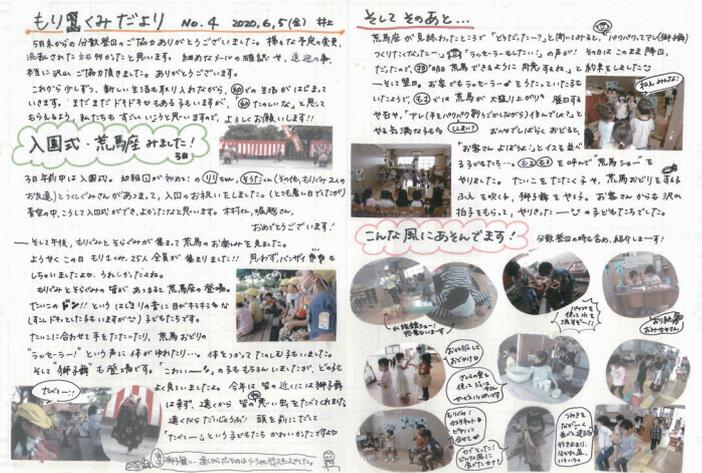
先生

クラスだよりは、

大事な、先生とお家をつなぐものです。

週に一回以上は発行されていると思います。規定はあまりありません。強いて言えば、週に一回くらいB5は出して様子を伝えてほしい。というくらいですが、週に一回だとB4またはB4表裏とかになってきます。

読むのも大変かもしれませんが、書くのも時間や労力を取られるので、何回も働き方改革で削減の候補にあがってます。でも、先生たちからは「あれは削りにくい」「おたよりで、お家の人に伝えることの大きさを考えると、なくすことはできない」とあがります。それだけ、お家の人たちが熟読して共感して理解してくださっているということです。ありがとうございます。そして確かに、「**そこまでのクラスの様子**」を知っているかいなくて、**ずいぶん我が子や仲間を、クラスを見る目が変わります。**ちゃんとしてるかしてないか、だけでない、変化や成長を見てくれる、そんなお家の人の温かい視線を支えているのだと思ってます。



グループについて

グループの名前を決めることや、当番の順番決めの様子を、先生はクラス便りに細かく書いてくださるのですが、子ども達のやりとりが面白くて、毎回楽しみです。自分の思い通りにならなかった子が、気持ちに折り合いをつけて行ったり、その子の気持ちを考えて、他の子が色々と提案をしたりする様子が手に取るように伝わってきます。もり組からそら組になって、子ども達のやり取りの様子に成長を感じたりもします。自分の意見を言ったり、人の意見を聞いたりする、大事な時間を作ってくれていると感謝です。



「グループ」を考える（なかの幼稚園の場合）

■三才後半から始まり、卒園するまで続く「グループ活動」なかのでは何を期待しているのでしょうか

- ・大人に指示されるだけでなく、自分たちで行動する機会を作る
- ・子ども同士で話し合い相談して決める、決まる
- ・自分たちで決めたことを目標にする

そんな経験をしてほしいとねがっています。そして例えば先生が提案したことであったとしても、子どもが主体的に活動に取り組んでくれることを期待しています。

■人が複数で行動するとき、いつやるか、いつ終わるか、次の機会になにをするか、などが課題になる。それらを自分たちで決めることが課題や活動に自ら取り組む姿勢を作り出して行く。グループを作ることには、そんな育ちの基盤になる大切な環境づくりなのです。

「ご飯ですよ、おもちゃをかたづけてね」「はい」無意識でいると、生活場面では大人も子どもも気づかないまま、大人は指示ばかり、子どもはただ従っている、「ただ従っている」その瞬間の子どもの思考は止まっているようにも見える。せめて幼稚園では、「子どもが自分たちで生活をを進める体験をさせたい」と考えました。しかしクラス全員で行動するとなると規模が大きすぎる、子どもには賄えない、お互いの表情を意識できる、声が届く範囲の規模で、そこでグループが生まれるのです。

■グループの初めての活動は「名前を決める」

一班、二班、Aグループ Bグループと呼びますか。せっかく自分たちのグループが出来たのです、名前も自分たちで決めるのはどうでしょう。

この初めての話し合いの活動に、混乱は当然。スムーズに進むことが狙いでグループを作っているのではないのです。当然トラブルになったりすることが予測され、そこを保育者が援助する。話し合いが滞ることや、時間がかかることなど、面倒であることは覚悟の上なのです。その援助が面倒であると感じたとすれば、教育・保育を放棄することになる、そんな風に考えているのが「なかの」です。

■日常生活の中にグループを置く意図

- ・子どもが賄える規模・子どもが目の届く範囲で生活を進められること。
- ・仲間を感覚的ではなく具体的にとらえていける。（なんとなく「怖い子」ではなく、こんな風に乱暴なことを言うのだな、など。）
- ・生活の中で見通し、手立てがわかっていくこと
- ・子ども同士が出会う場所であるので、物理的にも精神的にも居場所が生まれる
- ・自由な時間の多いなかのなので、仲間関係に限られてくる時代も、グループを構成するメンバーを担任が決めることで新たな出会いや関係を深める可能性を求めてもいるのです。メンバーを決めることで、仲間関係を新たにしたり、調整したりする機会にもなるのです。

なかのっ子の絵

おうちの人

子供が描いた絵が画用紙に入りきらない時、紙を足して下さることに感動しました。「この大きな紙に大きな絵を描きなさい」といわれて描くのと、「絵を描いていたら紙を足してもらえたから結果的に大きな絵に仕上がった」のでは、子供の満足度が全然違うと思いました。

自由に造形、絵画の活動が出来る。

紙にいっぱい、はみ出して描いてもいい。のびのびと！伝えたいポイントしっかり表現できる紙からはみ出しそうなら、**どんどん紙を継ぎ足してくれる！**

生活展、もりのねんど作品が良かった。細かい所まで表現できる。

絵のモデルに本物を使う。芋掘りのお芋から始まり、大根、そして、パイナップルや亀。さらにニワトリもお部屋に呼んでデッサンする。色々な角度から描く絵があって面白い。



何の絵を描いたかコメントをつけてくれる。



先生

絵は、発見も驚きも楽しいも、いっぱい詰まっています。描くのが楽しいのが何より。



一つのもの、同じものを見ても、それぞれの見え方、表現の仕方があり、出来上がりが全然違って、**それで良いと思えるのも良し！**



絵にコメントを書くこと

○を描いてお母さん。○を描いてお弁当。など、子どもは同じ○でも、その時の描いた物を言います。「そうか、○○だったんだね」と大人が子どもと共有することで、**自分が描いたものが伝わった！という感激がある。**ここが原点となってもっと描いてみよう（表現）という基本が培われるのですね。あくまでも「そうか、○○だね」と大人が心から共感してもらう事が原点です！幼稚園で描いた絵を、後から見るお家の人にも伝えたいと思うのです。

行事と生活の中で

おうちの人

好き勝手やっているように見えて、学年が上がるに連れてクラスのまとまりやそれぞれの役割がきちんとあって、「**憧れのそら組を目指す**」という一貫した流れを感じる。そら組が卒園する時の係りの仕事の引き継ぎが子ども同士で行われるのも素敵。

以前、自分のしてもらった嬉しい経験が下の学年に接する時に活かされていたり、子ども主導なのがいい。

そら組がつくし組のペアとなりお世話していく姿。お店屋さんや劇などに小さい組さんを招待していきながら、小さい組さんの**そら組への憧れ**の気持ちを育む。そんな小さい組だった子が、そらになって、つくしさんのお世話をしていく。**1年間の子どもの生活が、次の年への生活へと繋がるように組まれているところが見事!**

お店屋さんごっこの時に

つくし組のとき、春にそら組さんが開いてくれたお店屋さんで、本当は欲しかった物が**買わずに帰ってきてしょんぼり**…だった長男。先生にメモで知らせたら、なんと次の日欲しかった物のお店を**そら組さんがもう一度開いてくれ**、先生と買いにいった!と、にこにこで帰ってきました。そんな長男もそら組さんになり、先日のお店屋さんで、もり組で入れなかった子がいてかわいそうだから**もう一回やったんだよ**と話してくれました。こうやって**受け継がれていく**んだなあ…と思いました。

遠足の日等、子供たちで決める。あらかじめ決まっても、**子どもは自分で考え、相談し、大人に聞いてみる**。子どもはうれしいと思います。



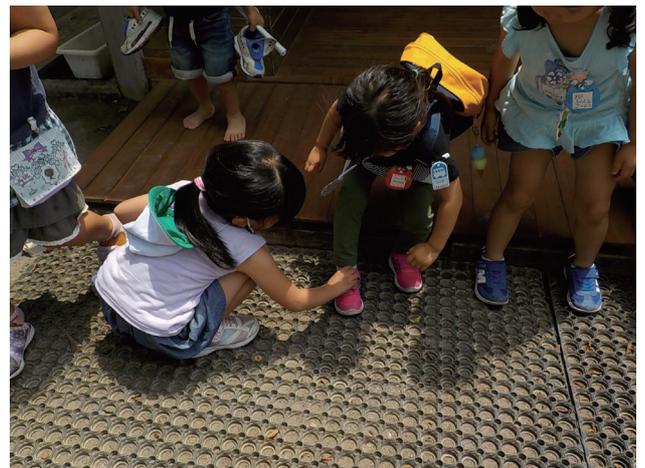
先生

大きな行事はいくつかありますが、どれもその行事を通して「**子どもに何を体験させたいか**」から始まります。だから、行事の節目がある毎に、子どもが変わっていくのがわかります。見ているこちらにも嬉しくなります。



小さい組とのかかわり。

そら組がやってくれることが、小さい組からは「こんなことができるんだ」と**憧れ**がある。小さい組から慕ってもらうことで「一番大きい組なんだ、僕たちが小さい組たちのためにやるんだ」といううれしさと責任感ができます。3学期の最後に次のそら組になるペアに、自分たちの一年やってきたことを引継ぎ、そこで振り返る。「自分たち頑張ってきたぞ。」次のそら組を託された側も、具体的に分かり、期待も自覚もしていく。**そら組のプライドが、なかの幼稚園の生活の集大成**です。



係の仕事

「お片づけの時間です！自分の遊んだものを片付けてください！」

その後、そら組さんは係のお仕事をしてください！」
入園して間もなく、息子が覚えてきたフレーズです。
家で、大声でこれを言い始めた時は、何のことで？
びっくりしました。園での放送だと聞き、子どもから
発信するやり方に魅力を感じました。



係活動なぜやるの？なかのの係活動を考える

年長そら組だけがやる活動

- ・ホールの片付け
- ・園庭のおもちゃの片付け
- ・大きい砂場の遊具の片付け

3つの仕事をそら組の3クラスで1週間ごとに交代して取り組んでいる



■係活動を通して願うこと

- ・「帰りの時間を知らせる」ことを、大人からではなく、**子どもからの気づき**で進めてもらいたい
- ・当番活動以外に、**生活の中で仕事**をしてもらいたい
- ・仕事を通じ、**園全体に視野を広げて**ほしい
- ・具体的な事象を通して**話し合い、問題を解決**したり、**より良い方法を見つける**

■3学期にこれまで係をして来た年長そら組から4月になって、その係を行うもり組に仕事を引き継ぐことの意味

- 引き継いだ側のもり組には
 - ・進級する前に「年長になったら何をするのか」を具体的に体験し。知ることで進級への不安が軽減された。
「係ができるようになった」ことが、**不安を解消**し4月以降、係を行う場面では自信を持って取り組む姿がみられた。
- 引き継いだそら組には
 - ・一年を振り返り、これまで取り組んできた活動を「やれた、やってきた」ことを自信にし、これからの小学生の新しい生活に自信を持って挑んで行こうとする姿勢を感じることが出来る。

■活動を通して

- ・係活動の中で起こる問題を、自分たちのこととして捉え話し合う機会に出会う。話し合うことで新たなルールをつくるなどして解決して行く機会に出会うことも期待できる。

一方、ジレンマも感じる。

- ・小さい組達も、遊んだものを遊んだ子が片付けて行くのは当たり前でもある。
- ・毎日同じ時間に同じ活動をする、一定の時間が必要。
- ・降園の準備に費やしたい時間帯でもある。係の仕事の時間は、まさにその降園前の貴重な時間、担任には他にしないといけないことが有る日になどはパニックになりそうでもある。それでも学年の後半には「先生はそっちをやって、係は自分たちで・・・」などと言ってくれる時が来ることも。でも甘えてはいけません、先生も一緒にやるのが基本です。

係を通して子ども達が主体性をもって生活をし、やがて園の全てが自分たちの場所であると実感してほしいと願っている。

健先生より

なかののプール 全学年に用意しているってすごい！

おうちの人

年中まで水着ではなくて、
パ・パ・パ・パンツ・・・
最初はびっくりしましたが、理由を聞いて納得。

プールに3年間1度も入れなかった息子。でも
「気持ちは楽しんでいるよ」と先生が考えてく
だされたこと。（先生からお借りしたゴーグルを
つけ、プールの横でみんなを眺めている姿があっ
た）

年中までは、プールが大小いくつかあって、ジャ
バジャバやりたい子と、ゆっくり入りたい子が
別々に入れるようになってきているのがいいな、と
思いました。

毎日、水を入れ替えているって聞きました！その
時期の水道代が10万円！？ってすごい・・・
塩素の消毒は入る前だけ。一般的なプールのよ
うな、「塩素たっぷり消毒」を避けてくれて
いるのは、すごいです。

先生

毎日水を代えています。だから、安心。だけ
ど、二か月で30万円の水道代がかかるとき
もあるって・・・もったいない？でも、暑かっ
たら毎日入りたい！

プールに入るのに、そら組以外はパンツで
す。なぜかというと、自分で着替えられるも
の、だからです。水着、特に女の子の水着は
なかなか難しいのですが、パンツなら大丈
夫！というわけです。そら組は、自分で扱え
るから、ということで水着ですが、それでも
なかなか大変ではあります・・・汗かいて
ると、貼りつくんですね。ちなみに、未就園
児もパンツです。プール用紙パンツではあり
ません。紙パンツなんて使わない、これを機
会にスパッとパンツを体験して変わって！と
熱い願いが込められています。



夏休みなかのクラブのプール

お泊まり会 ～なかので一番面白かったことランキングは間違いなく1位！～

おうちの人

普段の生活ではできないことが目白押しの日。コロナの影響で泊まるのは断念でしたが、**子ども達に取ってスペシャルな思い出**になるイベントをたくさん用意してくれて、**大満足の我が子**でした。

遠足が雨とか、お泊まり保育が雨とか、体調不良とか、マイナスに感じることを子どもたちにとって**マイナスにしない**。(雨の中、花火をあげてくれた。**人間キャンプファイヤー**やってくれた)

そら組のお泊まり会するとき、体調が悪く参加できないかとがっかりしていましたが、園長先生が「**体調が回復して、大丈夫そうなら来て**」と言ってくれ途中から参加することができました。

プールのときの体操『**げんき、げんき!**』の元気体操を、お泊まり保育の**サマーランド**でも、みんなで「元気体操」をする。園外でもなかのらしいのが素敵!!



先生

一日、楽しいことだらけの日ですね。晴れていても降っていても、**テンション高く**行きますよ～!!

今年、お出かけせずに園内で一日過ごしたんですが、やっぱり丸一日楽しかったです。結論。みんなでいることって、楽しい!



花火の幼稚園!

夏休み前に、夕方から園に集まって、やる花火の幼稚園。**浴衣や甚平でおめかし**していつもとは違う夜の幼稚園を味わえる、ドキドキ感がいい!



運動会って、当日に至るまでのプロセスが面白いです。

おうちの人

とにかく子ども主体。リレーを人数が違うと平等に勝敗がつかないって、子どもが気付くところから始めるって！初めにチーム分けしちゃうたら簡単だけどそれをしないのがすごい！

子ども達がルールを発見し作りあげていく過程が見事！もっとがんばって速く走れば勝てる！という考えに子どもたちになることがすばらしい！！

リレー遅い子→負ける。「〇〇が遅いからー」「でも前より速くなったよ。その分僕たちでカバーするよ。」→それぞれの子の状況を理解して、一緒に活動できる。

写真撮影。写真撮影用のひな壇があり、写真を撮るための場所取りの必要がなく、自分の子の出番が終わるとみんすぐに交代してくれる。

頑張った子ども達に、園長先生からの「おみやげ」があるのがいいです。あれをもらう時の子ども達の表情がとてもキラキラしています。

親が子供達の気持ちに寄り添えるようにと、事前に園からお手紙を出してくれます。いつもと違う雰囲気、愚図ってしまう我が子にイライラせずに「受け止めよう」という姿勢を予め準備できます。

つくし組がもり組を見て、もり組がそら組を見て、大きい組さんに憧れを抱いていき、次はこれをやりたいと思っていく姿が素敵です。

運動会当日が終わっても、翌週もリレーをしたり、玉入れをしたりしながら、運動会の余韻にしっかりと浸らせてあげていて、いいなと思います。

運動会の悔しい悔しい悔しい&万歳。仲間との喜びと悔しさの共有。表現する事。自分の思いを伝えることへつながって行くと思ひ、とても素敵な場面で好きです。

負けた時のくやしい！くやしい！くやしい！勝ってバンザーイはよく聞きますが、負けた時の気持ちを大きな声で、はき出す！！負けてもスッキリ！

先生



2学期になり、1学期よりクラスでの集会の話が内容も濃くなるし長くもなります。仲間が分かっているから、先生とも1学期で知り合っているから、できる。その時期だからできるリレーの話。

クラス便りを通して、お家の方と取り組みの様子や子どもの状態を共有しあって、成長を支え合っています。

余韻を残すわけ

本番の時に全力が出しきれる子、本番を通した事で、こういう事だったんだとわかってやれる子がいる。なので、本番を終えた後にできる子もいるので、当日以外でもやれていけるといいね、と当日を終えてからも余韻を残すようにしています。

万歳、敗者の前で「いいのか？」いいんです！今喜ばなかったらいつ喜べる。悔しい悔しい、「まあ！悔しい」それで解消、そして「もう一回」なんて言ってくれたら最高でしょう。



運動会をなぜするのか？

なかのの運動会は、親を感動させ涙させるために運動会をしているわけではない。

運動会は子どもの生活を見ていて今ならこんなことが楽しめる、仲間関係から「こんな体験をさせたい」、クラスで1つのテーマに取り組むことでそのテーマについて話し合うことも体験させたい！完成形をプランし、「マイナス」的思考でプロセスを考えるのではなく、**こんなことが面白いんだと発見していき、「さらにこんなことは？」「これを加えたら楽しくなる」という「プラス」の発想でプロセスを考えている。そこに、「もっとこうしよう」と子どもの意見が入り実現できたら最高！完成度や見栄えを求めない！**

なかのの運動会は、クラスや学年で取り組む数日間を通して、その日の活動後に振り返り共感したり話しあったりなかで、仲間に提案したり、仲間を評価したりする、それが明日へとつながっていく。私たちは時間の中で生きていることを感じていきます。1日で終わる活動では育っていかないことも沢山あるのです。そして、**運動会が終わっても、それで終わりではない。**運動会の経験を振り返り言葉で表現、描画で表現することで、同じ体験をした他の子の表現に共感したり、それをきっかけに思い出したり気づいたりする。当日の夜に家族で話をするのも振りかえり表現することです。

なかのの運動会は、子どもが変わり、クラスが変わっていきます。保護者の皆さんにも、他の子と我が子と一緒に見ることで、同じことや違いに気づくことができます。**子どもを見守ることの楽しさ、共に過ごすことの楽しさを感じてくれることを願っています。**

健先生より

リレーや荒馬や玉入れなど、毎年恒例のものを同じようにやっているわけではなく、**毎年、これをやるべきなのかを職員間で議論しあい、決めています。**

以前は、つくし組のお遊戯で親子でダンスをしていました。しかし、**もっと生活の中で取り組むことに近い事はないかと検討し、現在の「草はらドン」や親子遊びになりました。**

自発でなければ身につかないので、自分なりの課題をもって取り組んでいきたいという願いから、競技も常に考えています。



玉入れがどうやったら沢山入るか子ども達で考えていく様子。「椅子に乗って入れたら？」「いいねー！」「ここに向かって投げてー」「わかったー」こんな様子から段々と形になっていきます。



木工！運動会のお土産のトンカチで喜ぶ子ども達、次のステージ木工へのアイテムだもの！

おうちの人

「危ないから」とか「子どもにはまだ早い」と思われそうな木工製作に取り組むのがすごい。

そら組の子ども全員にトンカチを持たせ、釘を使い、自分のイスやテーブルを持ち帰ってくる**得意げな顔**は、忘れられません。

「**やりたいことを形にする**」ってなかなかできそうできない。つくしの頃から、空き箱などのおもちゃ作りに勤しみ、もり組での段ボール製作など、しっかりと段階を経てきている子ども達だからできるのだなと思いました。

あんなに、大きな迷路やお化け屋敷を作り、お店やさんや遊具として思いっきり遊び尽くす！毎年やっているから見慣れてきてしまったけど、やる子ども達はみんな「初めて」。「**自分たちにもできる！**」ここの時期までに、しっかりと**自信をつけてきた子どもたち**。それをしっかりと支えてくださった先生方！本当にすごいです！

生活展で、小さい組の子にもトンカチを触る機会を作ってくださっていて、いいなと思います。次は自分がやる番だ！と、**子どもの中に芽生える**な一と思いました。



先生

- ・本物の木やトンカチなどの道具との出会いがあり、思う存分使える。
- ・仲間や先生と一緒に作っているぞ！**感の手応えが大きい！**
- ・本物らしさを楽しみながら取り組める。
- ・「こう作りたい」「こういう風にやりたい」が色々実現できる。
- ・フリーの先生達もたくさん力を貸してくれる！
- ・「そら組になったらやりたい」と憧れを持っている。
- ・やりたいことの実現が幅広い。
「そんなのできないよ」から、「できるよー」
「**本当にできちゃった**」の達成感がすごい！



ダンボールの動物園

おうちの人

小さな箱から大きな段ボールでの動物製作の流れが、素晴らしすぎます。まだ経験していない人のために、ネタは言えませんが。

どこからあんなに**段ボールが出てくるのか**…？とビックリしました。

エコな生活を考えつつも、子ども達の物作りにかける資材への姿勢がとてもすごい。きっとお金もかかると思います。子ども達が使いやすいように、紙テープではなく布テープを**じゃんじゃん使っていく懐の深さ**は海のように。

この時期のもり参観、子どもが作った動物の紹介を、全員のことをあんなに細かく紹介できるのは凄い！子どもに寄り添ってくださっている証だと思いました。



先生

ダンボールは地域のお店の方に協力してもらい集めています。

小箱で動物作りをして、お気に入りや、本物みたいな動物を作れるようになった！そして、今度はダンボールで仲間と一つの動物を作ろう！そんな魅力がある活動。



嬉し恥ずかし、劇の会！

子どもも、おうちの人も当日までにいろんなドラマがあります。様々な相談を重ねながら、仲間と一緒に一つのものを作り上げていく、なかのの活動の集大成といってもよいでしょう。ママ達にとっても、仲間との絆を深めるきっかけとなる大事な取り組みのひとつです。

おうちの人

撮影はダメというかわりに、しっかりDVDに残してくれる。

子どもたちがこの日に向けて頑張る様子や、様々なやり取りを、ほぼ毎日お手紙にしてくれる先生。劇を見ただけでは伝わらないことも、このお手紙のおかげでそこに至るまでの背景を知っていることで、より深く伝わってきます。プロセスを大事にすることを親にも伝えてくれることで、より一層感動できます。ありがたいです。

いわゆる「お遊戯会」ではなく、クラスで行うことへのこだわりが熱い。当日の発表の結果が全てではなく、そこに至るまでの経過を大切に、子どもたちが相談しあい一つの物を作っていく様子がすごい。

劇の会を「ホールでやる」と思っていたので、「親もやるんだよ」と聞いた時はビックリしました。「親もかー、ちょっと嫌だな」と思っていたら、「当日はクラスの保育室」と聞いてホッとしたことを覚えています。

最初はイヤ…と思っても、「お母さん同士が考えて、子供が喜んでくれる」と思うと、親って頑張れちゃうんだな～と思いました。お母さん達は毎日多忙なのに、家のことを後回しにして子供のために時間を作っていくって、感動的ですよね。他の園では絶対ないでしょうね。

やらされている、しゃべらされている、ではない。その時の子どもたちが出来る最高の劇。親もやるのか…と思いましたが、子どもは喜ぶし、意外と楽しく、ママ達との絆も深まる！！

お母さん達の劇。グループに分かれて色々相談しているうちに、お母さんたちの距離もグッと縮まっていき、笑い声が絶えない！大人しそうなあの人！名演技！。知られざる特技を披露してくれる人。小道具や大道具作りで大活躍する人もいます。学生時代に戻ったような楽しいひと時を過ごすことができる、ママたちにとっても大事な大事な行事ですよ。

先生

以前「劇の会」は、大きなホールでやっていたこともありましたが、子どもへの様々な負担を考え、いつも過ごしているお部屋でやる今のスタイルにしました。いつものお部屋、いつも練習してきた場所。だから、子どもたちはいつもの力が発揮できるんです。



おうちの人も演じてみることで、お子さんの気持ちに共感したり、一緒に達成感を分かち合えたりできるといいなと考えています。毎年、「お母さんが見に来てくれる！」の子どもたちの嬉しそうな笑顔と、劇の会が終わったお母さんたちの達成感いっぱい顔とお母さんたちの関係の広がりを見ると、やっていただいていたなと思います。子どもには子どもの、大人には大人の、それぞれ大きな意義のある会です。この会が、大事な日であり続けられるのは、皆様のご協力のおかげです。



いっぱい遊べる園舎と遊びのアイテム

おうちの人

一階建てで、他学年のクラスものぞける、行ける

靴を履いてすぐに外に出られる。

職員室が身近で、子供も保護者も入りやすい

ホールでも自由に遊べるのがとてもいい

雨の日でもテラスで遊ぶことができるように、雨よけカーテンをしてもらったり、遊ぶスペースを確保してくれている。

蛇口がレバーでないこと。蛇口を「ひねる」ことができるようにと、子どもの基本的な体づくりを大切にしてくれている。



先生

地味な園舎ですが、その機能をちゃんと評価してくださるお家の方に尊敬と感謝です。

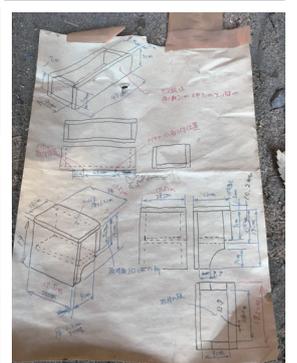
テラスも遊び場！

単に外と中をつなぐ空間ではありません。道具を持ち出して遊び場となり、お弁当を食べる絶好の場所にもなります。仲間や様々な遊びに出会ってくれることを期待しています。



なかの幼稚園は、ブランコが10個あります。トラックもたくさんあります。ままごとの道具やスカートもたくさんあります。それには理由があって、幼稚園の子どもたち、大半はまだ、「じゅんばんこね」なんてできないことがあるからです。遊びたいときに遊べる。友達と同じことで遊ぶ。我慢して「譲ってあげる」より、「これであそびたい！」と主張する方を、優先しているからです。もちろん、年齢や状況によって我慢したりもさせたりもあります。あれで遊びたい、待っていれば遊べる、と分かっているから我慢できるようになりますよね。

トラックの設計図↓





子どもを中心においたこだわりの建物

室内の壁は、グレー。なかの子どもたちは自由な服装。子どもたちが遊んでくれることで、活動してくれることでグレーの壁に花を咲かせることができる。また子どもたちの描いたものや作ったもの、先生が提示した遊びの道具や活動の様子を書いたものなどが主役になれる。「なんでもカラフルにすれば子どもは喜ぶ」そんな発想には共感できなかった事が背景にある。 →



↑床は緩衝材としてゴムを使った小さな沢山の柱で支えられた置き床構造。

←クラスとクラスのための壁も取り外すことができます。

材料や工法の工夫により、子どもたちが転倒したときのケガは以前の園舎と比べたらはるかに軽いものとなりました。



↑今年張り替えたテラスも同様に木の質感を保って、五メートル弱の幅を持っています。



←つくし組のテラスの柱・下駄箱の上下を分ける境はつくしの学年カラー赤色

↓つくし組の天井は四、五才の保育室よりも低い



つくし組



もり・そら組

※健先生の「なかのを振り返って」の文章より抜粋

遊びがいっぱい！最高の園庭と、陰の力

おうちの人

木がたくさん生えているので、**木陰が多い！**風通しも良い。冬の乾燥した時期は大変ですけどね。それでも、先生も子供も外で遊んでいるのですごいと思います。

園庭が広くて、**のびのび**成長できる。

男の先生がたくさんいて、**なにもない公園にロープを張り、アスレチックコース**に変身させてしまう。

遊具の点検がルーチン？！めっちゃ見てくれていた…！

生活展一日目に子どもをガタガタ橋で遊ばせてたら、男の子が「あ！ココにクギが！」と釘が5ミリくらい出ているところを見つけていた。（生活展だし先生忙しいし言うほどでもないよなあー）と私はスルーしていた。翌日の生活展2日目も子どもをガタガタ橋で遊ばせていたら、男性の先生（Wなべ先生？）がサッとやってきて、**トンカチで釘をカンカン！と直して素早く去っていった…！**そばにいたN西先生に「遊具のチェックをして下さっていたんですね…」と話したら、「先生はいつも遊具を見て下さって、**私達にも“どこか危ない場所ありませんか？”**って聞いてくれるんです」と教えてもらいました。修繕や維持の仕事はとても地味だけれどこんな忙しい生活展の日ですら、遊具の点検を欠かさないと凄すぎでは！？と思いました。他にもトイレで業者の人が便器やバルブを取り外して修理していると思ったら、トイレにセロテープの芯が詰まっていたのを取り除いている**T倉先生**でした。先輩ママに言ったら、「**なかのの先生はプロフェッショナル集団だから！！**」と言っていました。納得しかない。

砂場は、先生が**毎朝耕してやわらかく**してくれているので、いつでもふっかふかで、子どもたちが遊びやすいです。遊具も遊びの道具も、充実しています！思いきり遊べるなかのの園庭に☆5つ！

先生

子ども達の畑と飼育小屋。植物や虫、動物と触れ合い、科学する心が育ってくれることを期待しています。

アスレチック、砂場。挑戦し、想像する楽しさ、仲間との一体感が育ってくれることを期待しています。

小さな小屋、木陰そして広場。一人で、時に仲間とご馳走を作ったりかくれんぼをしたり。仲間と一つのボールを追いかけ、鬼ごっこをする。仲間との出会い、充実感を期待しています。



暑くても木陰で遊べるように、なかのには沢山の木が園庭にあります。大きい砂場は、藤棚のおかげで多少の雨にも気付かず遊べてしまいます。炎天下でも子どもたちを守ってくれています。

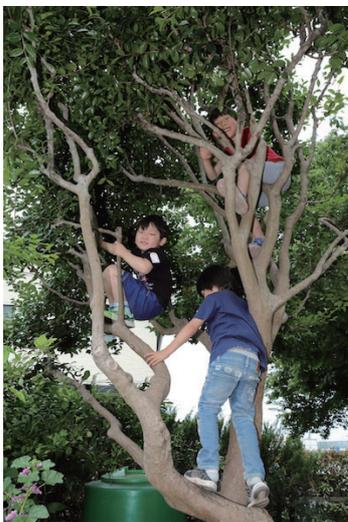




子どもを中心においたこだわりの園庭

園庭では自分から遊びにとりくみ、虫取りや木登り、木の実や果物を見つけて食べる、自分たちで種をまいた野菜を収穫して、仲間と料理して食べられる。そんな探検や挑戦の出来る、仲間と集える場にしよう。

二つの砂場は、砂だけでなく庭の花や小枝を使ってご馳走作りができて、水を流して仲間とパノラマを作る二つの大きな砂場にしよう。



開放的であること

外でみんなが何をして遊んでいるのか見える、部屋の中の様子も砂場で遊んでいてもわかるようにしよう。



園舎は、どこに行っても子ども達の場所 子ども達が自ら遊びたいと思える場や遊具を使って仲間と過ごす場にしよう。



※健先生の「なかのを振り返って」の文章より抜粋

豊作の畑と、ニワトリのたまご

おうちの人

園の果実や梅ジュースを飲ませてもらい「作って食べる」や「梅ジュースが熟成されていく過程」を見せてもらっていてありがたいなと思っています。

同じ野菜でも、クラスによって調理法がちがう

季節毎に様々な果実や植物があり、食べたり採ったりできる。柿が全園児に配れる程あるのには驚きでした。

子どもが収穫してきた野菜がかなり美味しい！

にわたりの卵は、みつけたクラスのもの！！（園長先生に確認する）それをクッキングに使う。私はお店で買った卵しか食べた事がないので驚きでした。その一つの卵を巡って、子ども同士で話し合うことの大切さもある。

食べられなかったものが食べられるようになった！

入園後に、飼育小屋を見てからN西先生に「動物いっぱいですね」とお話ししたら、『お母さんと離れて、子ども達が心細い気持ちでも、うさぎや動物を見てかわいいと思ったら気持ちが温くなる(?)安心できる(?)ので』と。(めっちゃ子供本位で嬉しい(TT))



先生

収穫できるものを見つけて、先生に聞いたら、採っていい！幼稚園で食べるきゅうりは、なぜかとても美味しいです！



園庭の奥の畑のクラスの畑には、毎年かぶや大根の種をまいて収穫。種まきのときは、可愛いおまじないをします。

他にも季節になると、じゃがいもや、さつまいも、いちごも、びわ、柿、みかん、ぶどう、さくらんぼ、トマトにきゅうり。たくさんの野菜や果物の収穫ができるなかのの畑、園庭。豊かな実体験を重ねてほしいと願っています。





なかののバス。遠足だって園バスがあるからどこへでも行けちゃいます！

おうちの人

「お迎えの時間少し遅れても大丈夫ですよー。雨や雪のときはバス使って下さい。」
先生は大変だと思います！でも、そのフレキシブルなところ本当に助かっています。

家庭の事情や天候等で臨機応変にバスをスポット利用させてくれる。

バス利用を希望時にできるのも、なかのならではのと思います。産後の大変なときや雪のときなど（うちの車がノーマルなので）利用させてもらい助かっています。

バスに乗りたくない→「いっぱい遊んで、早く帰ってこようか」子供の気持ちを受け止めて、子供が納得のいくようにもっていくのがうまい！

バスの先生がとても優しい。毎日会えるのがとても嬉しい！

「バスのせんせいと〇〇したんだよ」とよく報告してくれます。うち最後のほうのバス停なので乗っている時間が長いですが、車内で楽しく過ごさせてもらっているようで、ありがたいです。

バス停で待ってたら、近所の人に「今日は遠足？」とよく聞かれる。リュックと水筒姿と、わくわくして幼稚園に通う姿は遠足かな？と思わせるみたいですね。



先生

バス停でお母さんと別れる。泣いていてもしばらく「バスの中」で過ごす、ちょっと切り替わる。門についてバスから降りるところでさらに切り替わる。バスの中って、クラスともまた違う時間があるんです。

バスの先生

バスも1つの保育の場面なので、添乗の先生または運転の先生、どちらかは子どもやバスコースに慣れた先生が乗ります。親密な時間、楽しい時間になれると、幼稚園の生活にも弾みがつきます。

そこを支えるのがバスの先生。バスがたくさんあるので、運転の先生と添乗の先生を確保するのは結構大変ですが、門でおはよう！というとき、走って部屋に向かう子供たちを見ていると、バスも大事、とやっぱり思います。

バスが7台あるのは！？

なかのには遠方からも通う子が沢山いますので、走る範囲が広いです。しかし、「なるべくみんなが9:20頃までに集まれるようにしたい」ということで一台ずつの走る時間が短くなるようにするため、7台も走っています。

バスの利用は、単発も対応していますが、私（園長）が職員に対して有難いのは、日割りや月極め、引き落とし、などをその時々利用の方の一番良いように手続きし直してくれること。

手間はかかるのにありがとう。

会計監査で「こんなめんどくさい園はない！！」と言われるそうです。



預かり時間 なかのクラブ

おうちの人

自転車に乗れる

自転車に乗れるって絶対ほかの園ではないですよ
ね。うちの子2人は、なかの幼稚園のおかげで
自転車に乗れるようになり感謝です。

予約制ではなく、当日にお願いできるので使い
やすい。

なかのクラブのおやつがおにぎり！

おやつも、果物やお芋やお餅など安心なもの
が多い。

長期休暇の時には、園外に出かけてくれる！

夏休みには、親子で遊びに行ける！

お財布にも優しい料金があります

幼稚園に行き渋る時も、「なかのクラブだ
よ」というと、「行くー」になってくれます。

先生

預かり、の時間ですが、自転車だったり、おやつ
があったり、異年齢や普段のクラスを超えた出合
いがあったり。縁の下の力持ちです。



なかのクラブの何ともいえない自由な雰囲気。子どもも、それぞれ小さな集団や一人ひとりで過ごし
て、大人もそれぞれで仕事をしている。だけどお互いを気にしている空間がとてもよい。

おやつになると遊んでいた子たちを誰かが呼びに行き、ピューっときて、またピューっと去っていく
のもとても良い。

たまに（よく？）幼稚園に行きたがらないけど、「なかのクラブでどう？」と言うと、「じゃあ、行
く。」となるのがとても不思議だけど、それくらいの魅力が、あの空間にはある。うまく言葉にできたら
もっといいのにな～

なかのクラブのお迎えに行った時の事

そら組の子供達が外で遊んでいました。遊具で男の子2名が競い合っているのを、4・5人の子
どもたちが「Aくん頑張れ！頑張れ！」と応援していました。やがてAくんではない男の子が、応
援されないことに泣いてしまい、一人スミでこっそり泣いてました。すると、Aくんがそれに気が
付いて、側へ駆け寄り慰めます。応援していた子ども達も「ごめんね」と謝って側へ。泣いていた
男の子は「いいよ。でも、女の子たちは許さない！」と気持ちをぶつけるも、また皆で遊び始め
ました。しばらくして「みんな頑張れ！みんな頑張れ！」という応援が聞こえてきて、見てみる
と男の子たちがまた競い合っていました。みんな、すごく楽しそうでした。

この間、先生は誰も入ってはず、私も少し離れたところから見ていただけです。一時は大きな声
で言い合う場面もありましたが、自分たちで泣いている友達に気が付き、素直な気持ちをぶつけ
合い、認め合って、また遊ぶ。簡単なようで、意外とできないことだと思います。でもそれを自
然とできる年長さんは、やっぱりすごいし、年少、年中の積み重ねが成し遂げる、なかのの教育
だなと実感しました。

応援が、「Aくん」から「みんな」に変わる。大人に支持されるのではなく、自分たちで考えて行
動出来るのがステキ！

なかのクラブの素敵な時間



課外保育！サッカー！バトン！子ども会！園児から、卒園児まで参加できます！

おうちの人

なかのキッズ

サッカーより1歩手前の、ボール遊びや体を動かす遊びを、先生とみんなと楽しめる時間。先生は、いつも親しんでいる園の先生だから、子ども達も安心して参加している。理事長先生が、サッカークラブの代表なので先生だけではなく他にもコーチが来てくれることもあってさらに心強い！希望者は、新春フットサル大会にも参加してくれ、先生も応援に来てくれる事も、ありがたい！「ボールを後ろでキャッチができたよ！」と簡単な事から進めてくれるので、子どもに自信がついたと思う！



子ども会

月に2回、卒園した小学生が募って遊べる「子ども会」。6年生が中心になって遊びを決めて進めていく姿をみると、とても頼もしい。夏にはお泊り会や、川遊びなどもある！冬の星を見る会もいい！地域の子ども会が縮小する中で、縦割りで子ども達が遊べる場所があるのは本当にありがたいです。



↑「星を見る会」冬にカップラーメンを食べながらキャンプファイアを囲んだり、の心踊るイベント

先生

キッズのサッカーも、バトンキッズのバトントワリングも、子ども会も。どれも、外部講師ではないのです。習い事にしても、やり方や求めるところはその先生や教室それぞれ。そんな中でも、園庭やホールを貸すのに十分信頼できる先生が教えてくれるので、お願いしています。

バトンキッズ

年中、年長、さらに小学生も参加できる！なかの先生が教えてくれるので、安心！民間の習い事は、「お月謝」がお高い・・・良心的な料金で参加しやすい！



4

なかのに関わる大人達

先生達が思う、なかののいいね

園の環境など

健先生より

職員が保育を語ることができる

自然を身近で感じられるのがいい

砂場が大きいのがいい

学年ごとにプールがあるっていい

先生達、みーんなまじめ

男の先生の力。手作りおもちゃ。ロープワーク。
おままごと道具。トラック自園の畑があるのがいい
(ジャガイモ、さつまいも)

クラスの畑があるのがいい

にわとり→ふれあい・ひよこ・卵・料理

いろんな果物 (いちご、さくらんぼ、びわ、ぶどう、みかん、ひめりんご、かき)

保護者の事

サークルが楽しそう

なかのの父兄は協力的な方がいっぱい (お弁当作り。空き箱回収)

行動力のある方が多い

OGの協力がある

ほかに

みんなで喜ぶ大成功パーティー。作って食べて、お楽しみをして。生活には「たのしい」の力が必要。「楽しい」があるなかのの生活って、いい!

”子どもたちと作っていく毎日の生活たのしい”がいい

園長も遊びに入ってる

開かれた職員室 (入りやすい、遊べる)



生活展前、各部屋を見合う



夜遅くなって・・・



雪かき。園庭は、排水用のパイプが入っているんですよ。

恵子先生&たける先生

おうちの人

園長先生、恵子先生、いつもいろいろなところをフラフラしているのでいつでも気軽に相談できる。話を聞いてもらって、アドバイスを受けて、**元気をもらえる！**本当に素晴らしい！

恵子先生（前園長）、**冬に子供とドッチボール**。おいかけてこも、子どもに捕まらない。→すごい！ママたちより体力ある？！

途中入園の対応早い！見学に来て「**明日からきていいですよ**」。

長女のとき（5年前）、市外から転居してきて、10月だったので次年度の二年保育に入る予定でプレに参加したが、園長先生がすぐに「11月からどうぞ～」と言ってくれました。さらに、正式には入園前なのに、遠足と一緒に行かせていただきました。

恵子先生の**記憶力半端ない**、AI以上！卒園して店のレジをしていたら恵子先生が…。兄弟姉妹みんなのことをよく覚えていてくれて、嬉しいやらびっくりするやら。

プレのときに拝聴した「**幼児期は決して小学校への準備期間ではありません。それでは子供達のこの貴重な三年間がもったいない！**」という健先生の言葉が忘れられません。

“理事長”とか聞くと普段お会いしない存在、カタいイメージだったけど、健先生も**温和で壁のない雰囲気**ですてきだなあと思った。

1990年の卒園ですが、恵子先生や堀先生が当時のことを覚えていてくれて**驚きました**。本当に子どもたちが好きだから覚えてくれるんだなあと感じます。

タケル先生の話も大好きでしたー！**笑った笑った！**子どもによく言っています。「いいなあ、なかのに通えて。私もなかのに行きたかったあー！！！！」なかのでの日々は親子共々、宝物です！声を大にして言いたい！「なかのありがとー！！！！」
＊最近では保育士（なかので）への憧れもある、私と娘です。

理事長先生の話、園長先生の話、恵子先生のおもしろい。何園か他の園も経験しましたが、担任より上の先生の話がおもしろいと思ったのは、なかのだけです。たけるちゃん、恵子ちゃんのやり取り大好きです。

先生



卒園した人が、お母さんやお父さんになって戻って来て下さっています。

お父さんは・・・

- ・自分の仕事に励んでいる。
- ・子どもとよく遊んでいる。
- ・お母さんを支えている

お母さんは・・・

- ・子どもの事をよく考えている。
- ・お母さん同士の和を作ってくれている。

こんな姿を見ると、私たちのやって来た事が間違っていなかったなあと感じます。嬉しいな。

園長、恵子先生、そして自分にまで温かいお言葉に感謝申し上げます。

子どもの前に立つ機会もなくなり、たまに園に行ったら職員に嫌味を言ったり・・・でも職員と共に学んでいきたいという思いは持ち続けていたい、これまで学んだことを後輩に伝えたい・・・かつてお母さんたちに話していたように。嫌われない程度にしないとね（笑）。



みんなのいろいろなエピソード①

登園したとき、まだ眠くて抱っこから離れなかったら、ケイコ先生が「なかのクラブで少し寝てていいよ」と対応してくれたとき、え?! いいの?とびっくりしました。人間の温かさや優しさを感じました。この幼稚園は信頼できる幼稚園だと確信しました。

運動会の荒馬や劇の会をやりたくない子がクラスにいました。少しだけでもやらせるのかな~と思っていたら、**荒馬では太鼓の役、劇の会ではカーテン役**を任されたその子。クラスのみんなも受け入れる力を持っていて、どちらも大成功でした!!

バスの先生とのやりとり

下の子が入園する前あたり、上の子がお兄ちゃんとしてのプレッシャーを感じている様子でした。担任の先生方にも、なんとなくその事を伝えたら「気にしてみます」といってくれました。そして、その頃バスの運転をしてくれていた先生に園で会ったとき、「妹ちゃんが、入ってきますね~♪」なんて話をしたので、上の子の話をしてみたら、「**わかりました! バスの中でもその辺、気にかけてお兄ちゃんと接してみますね! 成長したな~!**」と言って下さいました。なかのは自分のクラスの子だけじゃなくても、いつも気にかけてくれるところが、ほんとうにありがたい! そして、こちらが心配している事を「**成長だ!**」と安心させてくれて感謝です。

初めてのなかのクラブの日に、バスで伝えたら、N西先生が子供に「**今日初めてのなかのクラブなの? やったね~♡**」と言ってくれた。親の私は自分の予定のことで頭がいっぱいだったけど、先生はいつもバスに乗って帰る子供が初めてのなかのクラブになる(残る)ことで不安になることも考えてあらかじめ「**やったね~!**」と**ポジティブなこと**ってイメージにしてくれたのかな?と思います。お迎えにいったら楽しそうにしている、泣いてなかったけど、バスの先生の言葉でポジティブに受け止められたのかなと思います。

コロナ自粛の時の、なかの

正解の見えない中で、どうやって子ども達との心の距離が離れないようにできるかを模索し続けてくれた2ヶ月半。

先生からの動画や、お便りは、折り紙やお絵かきや体を動かすきっかけをくれました。

他にも動画は、間違い探しゲームや劇まで披露してくれて、家で子どもと一緒にゲラゲラ笑える楽しい時間の配信でした。

「**やりとり便**」で先生が家までお手紙や絵本を届けてくださったりしたこともありました。ちらっとでも先生と会えた時の子どもの喜ぶ顔と照れた様子は忘れられません。

園庭もずっと解放してくださり、行き場を失った子ども達に、安心して遊べる環境を提供してくれました。

みんな辛い時期だったけど、幼稚園から気持ちが離れることなく過ごす事が出来ました。感謝です。



zoom朝の会に挑戦中↑



コロナ自粛中↑
子ども達がおうちで作れるようにと、**手縫いマスクキット**を準備してくれました。

みんなのいろいろなエピソード②

バス停で待っていると「なかの幼稚園に通っているの？」と年輩の女性に話しかけられました。「うちの子は、もう成人しちゃったけどなかの幼稚園だったのよ。お母さん、お弁当作りが**んばってね。**」とエールをいただき嬉しかったです。



子供が**不登校**になった時も、親身になってくれて、理想論やさきれいごとではなく現実的で日常を向き合う上での具体的なアドバイスに救われた。子供たちの行き場がなくならないように幼稚園を解放してくれたり、**居場所を作ってくれて**親子共に救われた。

「いつか**不登校のどもたちの居場所を作りたい**」そんな恵子先生の言葉に、希望をもらいました。

小学校では、不登校児が増えていて、なかの子ども特に多いと思われがちなところも。でもそれは、「**おかしい**」と思う違和感を、**素直に感じてSOSを出せるから**。そして、出したSOSを見逃さず、**受け止めてくれる保護者が多い**からと、恵子先生に言われ納得しました。

その違和感を感じられる力が、いじめや、集団のもつ力マイナスに働いた時、冷静に物事を判断する力につながっていると思う。

子どもが子供らしくいられるのがなかのの良いところ。

なかのを卒園してみた

30年以上前になかのを卒園しましたが、当時はまだ自己肯定感などという言葉も広がってなかったけれど、子どもながらに「**自分ってすごい!**」「**何でもできる!**」と思っていた記憶がある。



先生のお子さんがなかの卒と聞き、安心しました。自分が働いていて嫌だった園に、我が子を入れないと思うし、子どもが通っていて不満があった園では働かないと思うし、先生が先か、子どもが先かはわからないけど、先生のお子さんも通っていたと聞いて、間接的に、またなかのが好きになりました。



素敵だなと思うお母さんが、**なかの卒**だった。



みんなからの感謝の気持ち①

挨拶できずに心配していた息子に、元園長先生が「この子は目が合ったから大丈夫」と言ってもらえて救われました。現在では心配することもなく毎日元気に通っています。親が出来ないと思っていたことも先生方のおかげでできるようになっていったことが多かったです。いつもサポートしていただいてありがとうございます。子どもを第一に考え、楽しさを一番に。これからも世界一幸せな幼稚園でいてほしいと思っています。なかのに入園できてよかったです。

もお一同にかくすべてが素晴らしい！感謝しても仕切れないです！！！！私もなかのに通いたかった！！

担任の先生方を心から尊敬することができるのも、親としては幸せです。

ママが通いたい幼稚園、なかのマジック、親を育てる、根っこを育てる。



なかのクラブのお迎えなどで、放課後に幼稚園に行くと、先生方が頻りに打ち合わせをしている姿を見ます。子ども達は「ただ遊んでいる」わけではない。先生方が綿密に相談していき、子供達の次のステップへのきっかけ作りなどの準備をしていってくださることで、子供達の充実した生活と成長があるのだと、感謝の気持ちでいっぱいです！

ゆらゆら橋新調！

がたがた橋もまだまだ全然遊べそうだったので個人的にはもったいなーい！！と思ったけど、大型遊具（むっちゃ高価）を導入して今の時代に子どもの遊具のために設備投資してくれることがすごい！

卒園式。好きなこと好きなだけやってきた子どもたちが、卒園式でみせる姿がありえない。とにかくほめ言葉の「ありえない」です（笑）。立派に式をこなす落ち着いたその姿。厳しい指導やたくさんの練習がなくとも、あんな立派な卒園式ができる、強制ではなく、子ども自らの成長そのものだと思う。そこに向かって日々向き合ってくれる先生方のおかげだと思う。卒園証書が、すごいオリジナル！なかのでしかいたくない卒園証書です。

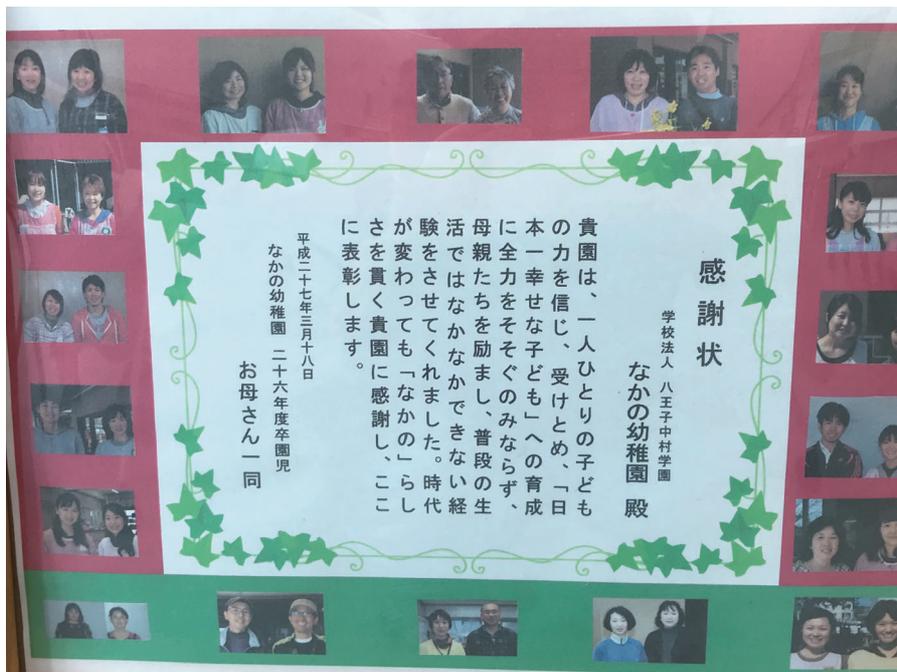
電報も同じく。それほど関わっていない主人が、小学校の入学式での祝電読み上げの途中で「これ絶対なかのだな」って言ってたほど。

みんなからの感謝の気持ち②

大人ペースでないことに驚いた！！園児がイキイキしている！！私が通っていた所は笑顔の少ない先生、怒る先生...（その中にもキラキラ笑顔の先生がいましたが）子どもながらに「この人たち本当に子どもが好きなのかな？」と思って過ごしていました。もちろん私は行きたくない日々。地元から遠く離れたこの土地での幼稚園探し。自宅から近い。お弁当、園庭が広いという点に惹かれて決めて大大大正解！もう最高の幼稚園です。

伝えたい事はたくさんありますが、心から！なかのに通わせて本当に良かったです。母親としてどうあるべきか、道しるべを示してくれたのもなかの幼稚園でした。苦痛だった参観時の一言タイムも、2人の子どもを通わせてもうすぐ6年。苦手意識も薄くなり、母の私も本当に成長させてもらっています。そして、なかののお母さんのひとのよさ！友達がいなかったこの八王子にたくさんのお友達ができました。学年関係なく気さくな感じで友達になることができるってすごい！

子どもが入園して分かった。「日本一幸せな幼稚園」本当にそうです！胸を張って言いたい！！



安定した保育の中で、子ども達の幸福を日々研究されている事、子供、孫を預かっている祖母の私もほっとできる幼稚園です。

行事、日々の生活、先生やお友達との関わり... 目からウロコとはこの事！先生もすっごく忙しいと思いますが、よく子どもたちを見てくれて寄り添ってくれて、お便りも多く毎回本当に楽しみに、そして楽しく読ませて頂きました。

息子がもり組の頃に突然「カーッ（ベツ）」（おじさんが痰を出すような、咳払い？）を頻繁にするようになりました。ある日、先生から「会話の途中でも咳払いが多く気になる、チックではないか」と指摘を受けました。私は一般的なチック症状しか知らなかったので、衝撃を受けました。

後日、かかりつけの小児科で、相談をしたところ、「そのチックの症状は珍しい。よく気がついたね！いい園だね」と褒めて頂きました。人気の小児科で色々な園に通うお子さんを知る先生からなかのを褒めてもらった事がとにかく嬉しく、改めて勉強熱心で経験豊富な先生がいるなかのを選んで良かったと実感しました。

なかののお母さん！

おうちの人

お母さん達の劇の会に対する姿勢！

現在、小学生の学芸会ですら練習時間が6時間しかとれないそうです。「なかののお母さんの方が練習してるじゃん！！」そんな会話をママ同士しました。

保護者が仲よし+保護者も園を楽しめる！

「幼稚園に親が行かなくてよい」ということがアピールになる園があるなか、なかのは逆だけど、入園後にイベントとかで“親も行ってよい日”は「行きたーい」と思えるくらい親も楽しい。

お母さん達が協力的で優しくていい人多くて楽しくて、面白いひとがいて気さくで、雰囲気も、居心地もいい！！

親も卒園児なので子どもと共感できる出来ごとが多い！

園児のお母さん達がとてもアットホームな雰囲気です。子育てについて相談しやすかったり、前向きになれる。
学年を超えてママ友が出来るのが凄い。
自然にママ友ができる。

先生

本当にお母さんたちが素晴らしいですね。



幼稚園からのあれこれを、お家の人たちが「やってみる機会」と捉えてくださる事、感謝です。

協力的で優しくて、才能豊かで、と、こちらもいつも良い刺激をもらっています。

～ 託児ポケット ～

なかのには、参観のときに下の子を預けられる「託児ポケット」。子どもを見てくれるのは、なかののお母さんボランティアです。「小さい子に癒されたい♡」という気持ちや自分もお世話になったから」という思い。預けるお母さんも「上の子をゆっくり見れてありがたい！」とお互いにハッピーなシステム！

上の子（在園児）をしっかり見てあげられる。感激しました。

参観などで下の子の託児がある。託児のお母さん方も、同じクラスのお母さんも下の子を温かく見守ってくれるので、肩身がせまくなかったです。なかののママが子だくさんなのは、この温かい環境もあるかもしれません。他の園のママにいつもうらやましがられていました。

卒園してからも、託児ポケットに協力して下さっている。

「託児ポケット」は、前園長が作り出しました。ここに協力して下さるのが有難いです。

恩返しならぬ、「恩送り」

いただいた恩を、次の人に送る、という事ですが、託児の方を見ていると、この言葉を思い出します。

PTAやサークル活動

クラスの係活動などで園へ協力できるようになっている。

PTA活動が活発。役員になり、1つの活動を通して信頼関係が生まれ、ママ友を超えた良い仲間になれる！

PTA三役の劇が面白い。やっている人達が一番楽しんでいる。

幼稚園に行く機会が多いと、子どもの様子もわかるし、ママ友も出来て楽しい。たぶん、一生の友達になると思います。いや、絶対！！

ママのサークル紹介

- ・ 伝統食「ひだまり食堂」
- ・ コーラスサークル「ちょこらす」
- ・ 沖縄三線隊「ていだなかの」
- ・ スポーツサークル「なかすぽ」
- ・ 遊びの会「土曜日も幼稚園であそぼ～の会」
- ・ 手芸サークル「つるしびな」
- ・ 子育て共有サークル「OYAOYAくらぶ」
- ・ 子育て共有サークル「青りんごの会」



三役の劇・・・張り切りすぎ!? 楽しみすぎ!?



ちょこらすのコンサート! 毎年大盛況!



手芸サークルつるしびなの作品
つるしびなは毎年お雛様と一緒に飾られます。



ちょこらす&なかすぽの
コーラス&ドラえもんダンス リモート企画



ていだなかのの三線ライブ! 癒しの音色!



なかのマルシェの風景

沿革

所在地 東京都八王子市中野上町5-32-13

開園当時 50数年前、人口の増加してきた地域の方から、当時地域で役員などをしていた前理事長中村武重の元に、「幼稚園をつかってほしい」との要望が集まり、「なかの幼稚園」を創設するに至りました。

当時は畑の中にぽつんと立っているような印象だったそうですが、50年経ち周りも家や道路が増え、今では「木に囲まれた広い園庭の幼稚園」という評価をいただいています。2019年3月までに7,166名の卒園生を送り出すに至っております。

1968年 4月	開園	2006年～2008年	トイレ改修
1975年 4月	高橋恵子 園長となる 個人立から法人化が決定	2012年 5月	ソーラーパネル設置
1983年 4月	学校法人八王子中村学園となる 同 中村武重 理事長就任	2015年 4月	ひよこ組始まる
1993年11月	新園舎・園庭完成	2017年 4月	さくら保育園
1999年 3月	三歳児保育室5新設	2017年 9月	「なかの50歳」50年記念祭
2000年 8月	園庭改修工事	2018年 5月	プレイルームから親子の広場へ
2003年 4月	中村健 理事長となる	2019年 4月	高橋詩子 園長となる 高橋恵子 顧問となる 自然園できる
2003年 9月	第二園庭完成 (子どもの広場)	2019年 12月	アスレチック改修
		2020年 2～3月	テラス改修
		2020年 9月	本誌「なかののいいね」発刊

2020年現在の編成

クラス編成	年長	「そら組」	(5才児)	3クラス	83名
	年中	「もり組」	(4才児)	3クラス	75名
	年少	「つくし組」	(3才児)	4クラス	69名
	満3才児	「ひよこ組」	(2才児)	1クラス	20名

職員 各クラスに担任と、フリー、保育者、理事長、園長、事務員、顧問、各1名
補助等、その他 合計37名

☆子どもたちを担任だけが見るのではなく、園長、理事長、学年を担当するフリーの保育者も共にクラスに入り、子ども達と共に遊んだり、活動したりしています。
子ども達に、担任だけでなく多くの大人にも出会ってくれることを、期待しています。



いいねを本にしよう、となり、予想通りか予想以上か、たくさんの時間をかけてもらって、とても内容の濃い、創立51・52周年を記念する本が出来上がりました。「いいね！」と「ありえないなかの」にエピソードなどを寄せてくださった皆さん、無茶ぶりに快くイラストを描いてくださった方々。そして時間と労力と愛をたくさんかけて編集にかかわってくださった、今年度PTA会長江浦さんと、元PTA会長満田さん。皆さんに深く感謝しています。

ここに寄せられた「いいね」あふれる生活、また、それを支えている理念は、これまでこの生活を作ってきた前園長恵子先生と、理事長健先生たちが作り上げてきたものです。この先、何十年かして、しっかりとした保護者にも変わらず「いいね！」といわれる生活を送ってられるように、受け継いだバトンをぶれずに持って走っていきたい、と改めて思いました。

健先生がよく、卒園式で言っていた「卒園して大きくなっても、遊びによってください。きっとあんまり変わらない生活をしていると思いますから」という言葉があります。大事なことはしっかり守っていくという覚悟として、これからも大きな声で言っていこうと思います。

なかの幼稚園園長 高橋詩子

「なかののいいね！」が完成しました！この本が出来上がって改めて思ったことは、「なかの幼稚園ってスルメみたいだな。」ということです。園のことを知れば知るほど、あっちこっちから子どもたちへの愛が、しみ出してくる。なんて味わい深い幼稚園なのでしょう。それは、先生、子どもたち、おうちの人、みんなが「こどもたちが日本一幸せなときを過ごせるように」ぎゅっと繋がっているから出ることのできる味なのだと思います。私はその味を、13年間も味わわせてもらったわけです。それは、強い根っことなって自分を支えてくれています。そして我が家の6人の子どもたちを見ていても、それは感じるどころです。

この「なかののいいね！」は、どのページも「なかの」の思いがあふれています。みなさんのそれぞれの「なかののいいね！」が、この本を読んで、さらに味わい深くなれたら嬉しいです。

詩子園長を中心に紡がれていく、これからの「なかの」。ますます旨味がでること間違いなしですね。きっと素敵な「いいね！」がたくさん生まれることでしょう。なかの幼稚園サイコウ！なかの幼稚園、バンザイ！

満田富弓



2020PTA
会長江浦

2019園長
就任高橋

2015PTA
会長満田

Special thanks

コメントを書いて下さったみなさん
なかの愛あふれる素敵なコメントありがとうございました。

イラストやデザインでご協力くださった
村上理恵さん 小澤ゆかりさん 渡部美華さん
下島育美さん 鈴木響子さん 牧野里美さん
河口あすかさん

素敵なイラスト&デザインを
ありがとうございました！

なかののお母さんたちが集まると「なかのっていいよね〜」「こういうところがいいよねー」という話になります。「なかの愛」を語り合い「やっぱりなかのはいいところ」を確認しあっています。

この記念誌は、そんな井戸端会議の内容を1冊の本にまとめた、という感じです。

編集にあたって、創立30年の記念誌、創立41年・42年の記念誌を拝見しました。そこで印象的だったことが2つあります。1つ目は、当時も今も先生方のお話の内容が変わっていないことでした。「子どもが中心」という理念がずっとブレていない事。長男が入園してから8年経ちますが、その頃から聞き、触れて来たなかのの理念が、30年前からずっとブレていないことに、とても感動しました。

2つ目は、当時の保護者の方の文集に「なかの愛」という言葉があったことです。今、私自身が感じている保護者としての「なかの愛」が、当時からあった事に、また感動しました。

時を超え、なかのの面白さを全身で味わったわが子が、なかのの保護者となった時にも、今と同じように「なかの愛」が語り継がれていますように！と願い、この編集に関わりました。ご協力いただいた先生方、保護者の皆さん、本当にありがとうございました！

江浦知己